

2024 年度

言語教育研究科

入学試験問題集

公開用

< 筆記試験 >

麗澤大学大学院

## 目 次

### 言語教育研究科＜日本語教育学専攻＞

2024 年度

修士課程／Ⅰ期	.....	4
修士課程／Ⅱ期	.....	8

#### <備 考>

・掲載入試年度：2024 年度

- ① 語学の基礎力を試す問題（日本語を第一言語とする方は英語の問題、外国人留学生は日本語か英語の問題を選択）
- ② 日本語教育学（目安として、日本語教育能力検定試験の範囲内）の基礎知識と理解力を試す問題

言語教育研究科  
修士課程

日本語教育学専攻

2024 年度 麗澤大学大学院言語教育研究科

日本語教育学専攻修士課程 I 期

一般選抜 入学試験問題

I. 【選択問題：日本語を第一言語とする者は(A)に解答すること。日本語を第一言語としない者は、(A)または(B)からどちらかを選んで解答すること】

(A) 【選 択】

下線部 1 と下線部 2 はそれぞれどのようなことを表していますか。違いが明確にわかるように書いてください。

<220words 程度の英文が入ります>

出典 [https://wwf.panda.org/discover/our\\_focus/food\\_practice/food\\_loss\\_and\\_waste/](https://wwf.panda.org/discover/our_focus/food_practice/food_loss_and_waste/)

(B) 【選 択】(日本語を第一言語としない者のみが選択できる問題)

以下の問1から問2の問題に答えなさい。

誰かの発言を伝える表現に用いられる文法項目について考えてみましょう。

問い1 発言が肯定文の場合は、それを<～と>を用いて表す方法と、<～を>を用いて表す方法とがあります。両者の間にはどのような違いがあるか、以下の例(1)と例(2)を用いて説明しなさい。

例(1) 今日授業で先生がみんなに「台風のため午後から休講になります」と伝えました。

例(2) 今日授業で先生がみんなに台風のため午後から休講になることを伝えました。

問い2 発言が命令・依頼の場合や質問の場合はどうなるでしょう。以下の(A)と(B)を<～と>を用いないで表現する場合、どのような形に変えればよいかそれぞれ書き換えなさい。次に、それぞれ何をどのように変えたかを文法的に説明しなさい。

(A) 上司が私に「書類を確認してください」と指示しました。

(B) 先生がみんなに「できましたか」と尋ねました。

## II. 【全員が解答する問題】

次の事項のうち、3つを選び、具体例を挙げて説明しなさい。

平板アクセント

特殊拍

共時的・通時的

接頭辞・接尾辞

主題と主語

ネガティブ・ポライトネス

インフォメーション・ギャップ

到達度テスト

### Ⅲ. 【全員が解答する問題】

次の(1)、(2)の問題に答えなさい（(1)、(2)両方とも解答すること）。

(1) 以下の文章の①～⑩の（ ）に入れるのに最も適当なものを、a～tのうちからそれぞれ1つ選びなさい。解答はすべて記号で答えなさい。同じ言葉は一度しか使えません。

学習者の日本語習得には様々な要因が影響する。まず、習得環境もその一つである。目標言語である日本語が使われている（ ① ）環境で習得するか、日本語が使われていない（ ② ）環境で習得するかということが、習得過程に大きく影響する。第二言語習得に必要なとされる（ ③ ）インプットを得られる機会や量も圧倒的に異なる。第二言語学習に関する適性の影響も大きい。特に、媒介語を使用せずに目標言語で教える指導法である（ ④ ）での指導や、文法説明等をせずに指導していく（ ⑤ ）では、音声に関する能力や言語分析能力の影響が大きくなると考えられる。また、動機づけも言語習得に大きく影響する要因の一つである。外国語を学ぶ動機づけに関しては、目標言語の社会や文化に興味があったり、目標言語を話す人々を理解したいといった（ ⑥ ）動機づけと、その言葉が上達すると就職に有利だからといった（ ⑦ ）動機づけがあるが、いずれにせよ、高い動機づけを持つことが言語習得には必要である。

学習者の年齢の影響も大きい。思春期を過ぎてからの第二言語習得では母語話者並みになるのは難しいと考えられているが、その理論的背景として（ ⑧ ）がある。また年少者の教育で重要なのは、日常会話に関する言語能力である（ ⑨ ）がある程度発達しても、教科学習に必要な言語能力である（ ⑩ ）が年齢相応に発達するにはかなり時間がかかるため、普通に話ができるように見えても学校の授業には全くついていけないということが起こることである。

- |          |          |                   |
|----------|----------|-------------------|
| a. 道具的   | b. CALP  | c. コミュニカティブ・アプローチ |
| d. 間接法   | e. 明示的指導 | f. 二言語基底共有説       |
| g. JSL   | h. 理解可能な | i. オーディオリンガル法     |
| j. TPR   | k. 臨界期仮説 | l. 教授可能性仮説        |
| m. 統合的   | n. BICS  | o. コミュニカティブな      |
| p. 暗示的指導 | q. 方略的   | r. 意味のある          |
| s. JFL   | t. 直接法   |                   |

(2) 構造シラバスと場面シラバスの違いを説明し、それぞれの長所と短所について述べなさい。

2024 年度 麗澤大学大学院言語教育研究科

日本語教育学専攻修士課程Ⅱ期

一般選抜 入学試験問題

I. 【選択問題：日本語を第一言語とする者は(A)に解答すること。日本語を第一言語としない者は、(A)または(B) からどちらかを選んで解答すること】

(A) 【選 択】

以下のこの文章は生涯教育について述べたものです。現状にどのような問題点があると述べられているか、また、それぞれの問題点に対してなにが必要と述べられているか、という2点についてまとめてください。

<160words 程度の英文が入ります>

UNESCO のサイトより一部改編

(B) 【選 択】（日本語を第一言語としない者のみが選択できる問題）

以下の説明文を読んで、問 1 から問 2 の問題に答えなさい。

問い 1. 以下の会話において、A の問いに対する答え B は不自然である。A に対する答えとしてより自然と思う答えを書きなさい。

A 「テーブルはどこにありますか？」

B 「庭にテーブルがあります」

問い 2. B の発話「庭にテーブルがあります」はどのような会話であれば自然な使用だと言えますか。この発話を含む会話を自由に作りなさい。必要に応じて終助詞、間投詞などを補ってよい。また、B は質問の答えである必要はない。

問い 3. 問い 2 で作った会話がどのような状況でなされているかを説明しなさい。また、問い 1 の会話が不自然で、問い 2 で作った会話が自然であるのはなぜかを説明しなさい。

## Ⅱ. 【全員が解答する問題】

次の事項のうち、3つを選び、具体例を挙げて説明しなさい。

二重母音

ら抜きことば

異形態

主節と従属節

待遇表現

やさしい日本語

過剰般化

ピア・ラーニング

### Ⅲ. 【全員が解答する問題】

次の(1)、(2)の問題に答えなさい（(1)、(2)両方とも解答すること）。

(1) 以下の文章の①～⑩の（ ）に入れるのに最も適当なものを、a～uのうちからそれぞれ1つ選びなさい。解答はすべて記号で答えなさい。同じ数字の（ ）には同じ言葉が入ります。なお、同じ言葉は一度しか使えません。

外国語を教えるための教授法には様々なものがある。文型練習を重視する（ ① ）の長所の一つは（ ② ）ということであるが、（ ③ ）を考えない練習になりやすい。一方、コミュニカティブ・アプローチは伝達中心のアプローチであり、その活動としては（ ④ ）が重視される。しかし、（ ⑤ ）がつきにくいという短所がある。言語形式を中心に教える場合、意識的に学ばれ分析や説明ができる知識である（ ⑥ ）知識が身につくが、外国語が使えるようになるために必要とされるのは無意識的に言語が使える知識である（ ⑦ ）知識である。（ ⑥ ）知識をつけることが自然に使えるようになることにつながるかどうかは意見が分かれており、この議論は（ ⑧ ）の問題と呼ばれている。現在のところ、（ ⑥ ）知識を持つことは自然な習得を助けると考える研究者が多い。第二言語習得の過程ではインプットを理解するだけでなく、言語形式への（ ⑨ ）が必要だとされ、（ ⑥ ）知識を持つことは（ ⑨ ）を促進すると考えられている。教室では、学習者の発話の誤りに対して（ ⑩ ）を行うことも（ ⑨ ）を促進するための一つの方法である。

- |          |             |                  |
|----------|-------------|------------------|
| a. 明示的   | b. 繰り返し     | c. 訂正フィードバック     |
| d. 方略的   | e. 練習       | f. 肯定的フィードバック    |
| g. 形式    | h. 正確さ      | i. オーディオリンガル法    |
| j. 流暢さ   | k. すぐに使える   | l. 積み上げ練習ができる    |
| m. 意味    | n. 暗示的      | o. すぐに使えない       |
| p. 気づき   | q. タスク      | r. インターアクション     |
| s. 文法訳読法 | t. インターフェイス | u. フォーカス・オン・フォーム |

(2) 日本語教育のコースデザインにおいて、「ニーズ分析」の目的とその調査方法について述べなさい。